

ニュースレター

いりおもての森から



エンレイショウキラン

発行：林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

沖縄県石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎1階

TEL 0980-88-0747

No.66号

※ホームページではニュースレターのバックナンバーが確認できます。また日々の活動報告などのトピックスも随時更新しています → https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/iriomote_fc/



「石垣市爬龍船（ハーリー）競漕大会」に参加

ユッカヌヒー（旧暦5月4日）にあたる6月21日（水）に「令和5年度第117回海神祭（石垣市爬龍船競漕大会）」が開催され、西表森林生態系保全センター職員3名、環境省石垣自然保護官事務所4名、西表自然保護官事務所3名の計10名の合同チーム【チーム名：F&R（フォレスター&レンジャー）】で団体ハーリーの部に参加しました。

この大会は、漁業者が豊かな海の恵みに感謝を捧げると共に、安全操業と豊漁を海神に祈願する海の一大大祭典で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で3年連続中止となっていたこともあり、4年ぶりの開催に市民総出の盛り上がりとなりました。

団体ハーリーの部は、61チームが8組に別れ競争が行われました。

当チームは予選第2組目のスタートとなり、緊張感の中、ピストルの合図とともに一斉にエークを漕ぎ、順調な出足でしたが、距離が進むにつれて腕に乳酸が蓄積しはじめ、最後は気力との戦いとなりました。

残念ながら4年前の雪辱を果たせず最下位脱出はなりませんでしたが、石垣・西表の両自然保護官との絆を深めることができました。

来年度こそは、新チームで決勝進出を目指してもらいたいと思います。



力を尽くしたゴールの瞬間



10名の精鋭達

船浦ニッパヤシ希少個体群保護林のモニタリング調査を実施



ドローン撮影、上空より

船浦ニッパヤシ希少個体群保護林（上原国有林 208 は林小班）は、西表島の船浦地区にありニッパヤシの自生地北限として植物地理学上重要なものであり、昭和 47（1972）年に国指定の天然記念物に指定されています。

当センターでは、平成 17（2005）年からモニタリング調査を開始し、現在、毎年 2 回（6 月期と 11 月期）ニッパヤシの葉数や周辺環境の変化等について調査を続けています。

令和 5 年度の第 1 回目調査は 6 月 14 日、15 日に実施しましたが、西表島は 6 月でもかなり蒸し暑く、また、マングローブ林内は予想以上に足下が滑りやすく悪戦苦闘しながら調査を実施しました。

調査内容はニッパヤシの葉の状態、地盤高・開空度の測定、定点写真撮影などを実施しています。今回の調査では、葉数全体では 653 枚と調査開始以降で最高となりましたが、一部枯れた葉が 268 枚とこちらも最高となっています。一方、新芽は 68 枚と葉数の約 1 割を占め新旧入れ替わりながら生長しているものと考えられます。地盤高は全調査地点で上昇し、開空度は平均で 1.9%低下となりました。

今年度はモニタリング調査とは別にニッパヤシの周辺木の除伐を計画しています。平成 17（2005）年と平成 19（2007）年の 2 回に分けてニッパヤシの上層部を遮光している周辺植生の除伐を実施し樹勢回復措置を行ったところですが、除伐実施から十数年が経過し前回の除伐の際に伐採の対象とならなかったオヒルギやヤエヤマヒルギ等がニッパヤシを遮光するまで生長し、再びニッパヤシの衰退が危惧される状況にあることから、十数年ぶりの除伐を計画しています。実施にあたっては有識者の助言等を踏まえ除伐木の選木を行いニッパヤシに影響が及ばないよう慎重に作業を実施することとしています。

当センターとしては、今後とも船浦ニッパヤシ希少個体群保護林を保全するため有識者の助言等を頂きながらモニタリング調査を継続していくこととしています。



下には枯れた葉が落ち新旧入れ替わりが見られる



中央にあるのが実で堅い種子を持ちます

西表島の樹木いろいろ①



アカハダノキ(マメ科)

【アカハダノキ】

山野に生育し、高さ10メートルに達する常緑の高木です。葉の表面は光沢があり、小葉は楕円形です。実は豆果で長さ20センチにもなり、らせん状に湾曲します。幹は名前のとおり赤い肌をみることが出来ます。

(出典：西表島の植物誌)

外来種対策試験地を参考に！

屋久島森林生態系保全センターと意見交換会を実施

7月24日(月曜日)から7月26日(水曜日)にかけて、当センター職員2名が屋久島森林生態系保全センターと意見交換会を行いました。屋久島森林生態系保全センターで実施している希少種の保護対策や外来種の駆除対策、また、自然環境教育への取り組みなど共通する業務が多く、世界自然遺産地域として登録された先進地でもあり参考となるところが多数ありました。

7月24日、屋久島に到着し早速、外来種対策のアブラギリ駆除試験箇所を確認しました。屋久島センター職員によりアブラギリによる生態系への影響や、以前、屋久島森林生態系保全センターと屋久島森林管理署で実施した駆除試験の結果等の説明を受け、当センターで実施しているギンナム駆除と比較しながら駆除方法などの意見を交わしました。

7月25日、当日の現地案内は、屋久島センター職員2名に対応していただき縄文杉まで約2時間歩くとのこと。初めての屋久島登山でしたが、歩き始めて気づいたことは苔が多いことです。歩道にある石には苔がピッシリ付着し、とても滑りやすく歩きにくく感じられました。標高が高くなるにつれ気温は涼しく感じましたが、足下が滑りやすいこともあり歩道周辺のヤクスギを見る余裕もありませんでした。予定どおり約2時間後に目的地の縄文杉に到着し、縄文杉周辺で実施されているシカ被害対策や保護柵設置後の植生回復



繁茂したアブラギリ(後方、試験地外)
手前はアブラギリの駆除が成功した箇所(試験地内)



立木にも苔がびっしり

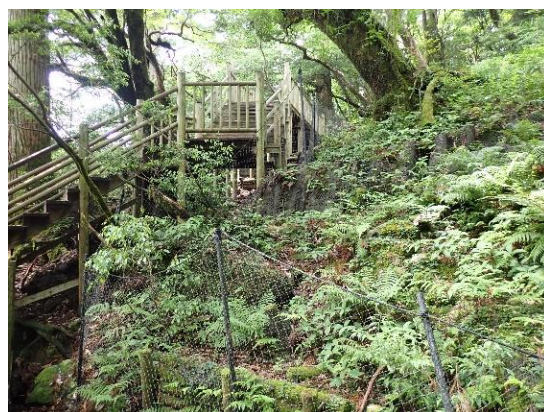
状況などの説明を受けました。また、その他の取り組みとして縄文杉周辺での観光客へのマナー指導も実施しているとのことでした。

7月26日は、西部地域にある植生の垂直分布箇所を確認し、屋久島が世界自然遺産として評価された箇所であることや、主に島の南西部地域に生育するヤクタネゴヨウなどの自生状況などの説明を受けました。

最後に、現地において屋久島森林生態系保全センターが取り組んでいる希少種の保護対策や外来種対策などを学ぶことができました。これらの対策を参考に西表島においても、希少種・固有種等の保全・保護、また、ギンネム等の外来種の撲滅を目指して、当センター職員で取り組んでいきたいと考えています。



登山道脇にもヤクスギが！



縄文杉周辺ネットの中は植生が回復

西表島の樹木いろいろ②

【アカミズキ】
林内に生育し、高さ3メートルほどになる常緑の低木です。樹皮は薄い赤褐色で若い枝は短い毛が生えています。枝先に円錐花序の白い花が咲きます。実は球形で長さ約1.5ミリで無毛です。種子は長さ約0.4ミリで小さな翼があります。
(出典：西表島の植物誌)



アカミズキ(アカネ科)

◆◇◆◇◆人事異動(令和5年4月1日付け)◆◇◆◇◆

お世話になりました

転出者 後藤 直哉 (転出先：大分森林管理署)
春田 魁登 (転出先：林野庁)

よろしくをお願いします

転入者 田中 和利 (前任地：沖縄森林管理署)
須寄 翔太 (前任地：九州森林管理局)